

ウラジオストクにおける歌舞伎踊り公演
(説明書2(1))の実施に関する参考情報

一例として、出演者が「市川左團次」、「小鹿野子供歌舞伎団」らなどとなる場合は、主に以下のような条件を確保することが期待されます。

1. 歌舞伎踊り公演

- 会場はフィルハーモニー劇場(ウラジオストク市スヴェトランスカヤ通り13)または同等の劇場とする。フィルハーモニー劇場を使用する場合の経費の目安は275, 400ルーブル(設営日のテクニカルスタッフ人件費及び公演日(1日当たり)の会場借料, テクニカルスタッフ人件費, 舞台スクリーン使用料, ビデオエンジニア謝礼。)
- 1席当たり200～600ルーブルのチケット販売とし、売上代は会場側の収入とする。
- 公演日は7月28日及び29日で、時間帯は夕刻(18～19時台)。
- 会場設営は7月27日。
- 1公演当たり60～90分が目安。
- 構成としては、歌舞伎ソ連公演90周年に関するプレゼンテーション、市川左團次による歌舞伎踊り、市川蔦之助による女形歌舞伎踊り、両歌舞伎役者によるトークショー、小鹿野子供歌舞伎団による「寿曾我対面工藤館の場」の披露、歌舞伎の所作に関するマスタークラス。
- 「寿曾我対面工藤館の場」の公演の際は、会場スクリーンにセリフの翻訳文を表示。
- 司会が必要であり、日露通訳については早稲田大学演劇関係者によるプレゼンテーションの際に最低でも1名、トークショーの際に市川左團次、市川蔦之助に最低でもそれぞれ1名、マスタークラスの際にも最低2名を用意し、黒子や演出監督用の通訳として最低2名を用意。

2. 交流イベント

(1)28 日午前～午後(市川左團次、市川蔦之助、早稲田大学演劇関係者)

- 会場は青年劇場(フィルハーモニーの横、スヴェトランスカヤ通り15a)または同等の会場とする。
- 会場借料等の概算は、2時間会場を利用した場合は借料として30, 000ルーブル。照明技師、音響技師、管理費、清掃作業費、警備費については、各費用につき1時間当たり500ルーブル(1時間2, 500ルーブル)である。
- 60～90分を目安とし、夕刻の公演に影響が出ない範囲。
- 対象者は芸術関係者や学生、若手俳優、俳優志望者、マスコミ関係者、歴史研究家とし、所作のマスタークラス、歌舞伎ソ連公演の歴史に関する説明や

質疑応答を実施(参加費は無料)。

- 対象者への呼びかけは総領事館が支援。

(2)28 日午前～午後(小鹿野子供歌舞伎団)

- 会場は第51番学校(ウラジオストク市ヴォストレツォヴァ通り9)を想定(会場借料, 機材等の借上げは不要。)
- 90～120分を目安とし, 夕刻の公演に影響が出ない範囲。
- 同学校は, 市内で最も日本語教育に力を入れている機関であることから, 所作のマスタークラスのみでなく, 子供同士の交流会(自由歓談等)を実施。

(3)29 日午前～午後(全員)

- 会場は全ロシア子供センター「オケアン」(ウラジオストク市アルテコフスカヤ通り10)を想定(会場借料, 機材等の借上げは不要。)
- 60～90分を目安とし, 夕刻の公演に影響が出ない範囲。
- 対象者はサマースクールで同所を訪れている青年。
- 所作のマスタークラスや青年との交流会を実施。

3. 出演に関連するロジスティクス

(1) 歌舞伎役者(市川左團次などを想定)

- 7月27日にウラジオストク入りし, 30日に帰国(期間厳守)。
- 航空券については市川左團次がビジネスクラス, 市川崑之助を含む同行スタッフ4名についてはエコノミークラス。
- 衣装等は日本から携行。
- 現地での移動の際は, 早稲田大学演劇関係者も含めて6名で移動するためワンボックスカー若しくはミニバスを利用。機材については別途トラックで運搬。
- 公演打ち合わせ, マスコミ対応, マスタークラス等で最低でも常時2名の通訳が必要だが, 見込みにより適宜追加。
- 日本国内移動についてはハイヤー若しくは同等車両を手配。

(2) 子供歌舞伎団(小鹿野歌舞伎団など)

- 会場設営のため, 7月26日にウラジオストク入りし, 30日に帰国。
- 役者として子供が10名, 大人が10名であり, 裏方と演奏家が5名の計25名を想定。
- 航空券についてはエコノミークラス。滞在中, 子供はツインルームに宿泊することを想定。
- 現地移動の際は, 貸切りバスを利用。機材については別途トラックで運搬。
- 公演打ち合わせ, マスコミ対応, マスタークラス等で最低でも常時2名の通訳が必要だが, 見込みにより適宜追加。
- 大小道具(重量250～300キログラム)は日本から携行。
- 演奏家がステージ上で生演奏。
- 日本国内移動については貸切りバス及び荷物運搬用トラックを手配。

(3) 歴史・文化講演関係者(早稲田大学演劇関係者など)

- 7月27日にウラジオストク入りし、30日に帰国。
- 早稲田大学演劇研究者等1名のみ。
- 逐次通訳で発表するため、事前に発表内容を把握し、通訳者と打ち合わせするなどし、スムーズな進行に努めること。
- 移動については市川左團次一行と同じ。

4. インタビュー

- 市川左團次側は、本事業を通じて歌舞伎ソ連公演90周年のPRと歌舞伎という伝統芸能の認知度を高めるため、可能な限りテレビ出演やインタビューに応じる意向であることから、多くのマスコミに取材してもらうため、積極的にアレンジしてほしい。
- 歌舞伎踊り第1回目公演(7月28日)については、政府要人の参加を見込んでいところ、日露友好ムードをPRするため、マスコミ取材を集中させること。
- マスコミ各社に対しては、歌舞伎ソ連発公演当時の歴史や本公演の主旨について事前に通知(初公演を行った2代目市川左團次の2代後になる4代目が公演することに意味があること等を説明した誘致活動)し、マスコミの関心をひくような呼びかけを行うこと。事前の呼びかけにおいて、同事業の特集番組や記事を製作したいとの申し出があれば、空き時間等を利用して可能な限り協力すること。

5. その他

- 「寿曾我対面工藤館の場」の露語字幕については、別途関係者(市川左團次側同行スタッフの内の1人)が字幕を作成予定のところ、同担当者と事前に協議すること(字幕進行については同担当者が行う)。
なお、字幕作成の際は、担当者が複数回にわたり小鹿野子供歌舞伎団と合同で稽古したり、ロシア人演劇関係者による露語の確認作業があるため、担当者の日当及び交通費として96,000円、ロシア人演劇関係者に対する謝金として300米ドルを想定。
- 早稲田大学演劇関係者によるプレゼンテーションの内容は、同関係者と協議の上、当地市民の関心を喚起するような内容にすること。発表内容については事前に大使館若しくは総領事館の了解を得ること。
- 公演では満席を目標に広報に力を入れること。また、市川左團次及び市川崑之助は、容姿端麗な歌舞伎役者であることから、事前広報の際は顔写真を活用すること。
- 通訳については、公演及び交流会時に最低でも計4名の通訳が必要であるが、スムーズに進行させるため、国際会議等での経験があり、歌舞伎に關す

る専門用語等を解す程度の通訳を起用する。

(了)